

—編集後記—

大学で働いていると、多くの学生に囲まれているので、過疎・高齢化を感じることはほとんどありません。しかし、田んぼや畑の調査で農村に行くと、若い人や子どもの姿を見かけることは稀で、お年寄りがちらほらという感じです。農村の過疎・高齢化は長年の課題ですが、実際に訪れるとそれがはっきりと見えます。古くからある商店、食堂などは廃業し、商店街はシャッター通り化しています。廃業の主な理由は、高齢化と後継者不足で耕作放棄と同じです。土地改良区も職員の高齢化がかなり進んでいると聞きます。今後若い人材をどうやって確保していくかが課題のようです。私が勤める大学は若い人が多いですが、教員だけは高齢化が進んでいます。

私が学会に入会したのは2002年、30歳ころのときでした。同世代の若い研究者が結構いて、少し年上の40代の先輩がたくさんいました。当時の40代の先輩たちが今の重鎮です。20年前の土壤物理学会は、50～60代

の先輩たちが多かったけれど、30代～40代の若手と中堅も結構いたのです。しかしその後、過疎・高齢化が進みました。この20年で会員数（正会員、学生会員）は450くらいから250くらいになりました。

でも、暗い話ばかりではありません。明るい話もあります。今号に掲載された「2021年度における土壤物理学会関連の博士論文・修士論文の題目」をご覧ください。博士論文11件、修士論文19件です。社会人もいるのですべてが若い人ではないですが、このなかに20年後の土壤物理系を担っている人がいることは間違いないでしょう。また前年度は、学会の入会が退会を大きく上回りました。入会の多くは学生会員です。学生会員はこの20年で2倍以上増えています。現在の会員をみると、およそ2割が学生会員でシニア会員は1割。実は若い人の割合が高いのです。さて、今年度はどうなるでしょうか。

千葉克己（編集委員）

土壤物理学会

事務局構成

会 長	取出 伸夫	三重大学 大学院生物資源学研究科
副 会 長	諸泉 利嗣	岡山大学 大学院環境生命科学研究科
事務局長	渡辺 晋生	三重大学 大学院生物資源学研究科
庶務幹事	小島 悠揮	岐阜大学 工学部
庶務幹事	廣住 豊一	四日市大学 環境情報学部
編集幹事	亀山 幸司	農研機構 農村工学研究部門
会計幹事	坂井 勝	三重大学 大学院生物資源学研究科
会計監査	岩間 憲治	滋賀県立大学 環境科学部
	水谷 嘉之	三重県 農業研究所

編集委員会

委 員 長	宮本 輝仁	農研機構 農村工学研究部門
委 員	朝田 景	農研機構 農業環境研究部門
	岩田 幸良	農研機構 農村工学研究部門
	小林 政広	森林研究・整備機構 森林総合研究所
	坂口 敦	山口大学 大学院創成科学研究科
	千葉 克己	宮城大学 事業構想学群
	常田 岳志	農研機構 農業環境研究部門
	中野 恵子	農研機構 九州沖縄農業研究センター
	濱本 昌一郎	東京大学 大学院農学生命科学研究科